

平成29年度 租税教育に関する研究発表要項

亘理町立荒浜中学校
教諭 小鴨 幸生

1 研究主題

『租税への関心を高めるための指導法の工夫』
～学び合いを取り入れた指導を通して～

2 主題設定の理由

私たちの生活は、国や地方公共団体の財やサービスによって支えられている。国や地方公共団体の公共施設や公共サービスは、国民生活の基盤となるものであり、安全で豊かな生活を維持し確保するためにはなくてはならないものである。そしてその経費は、国民が税という形で負担している。

生徒は、国や地方公共団体が公共的な仕事を行い、その費用が税金でまかなわれていることは、知っている。しかし、租税に関しては、まだ授業で取り扱っていないので、租税のしくみや種類、財政の働きというところまでは、理解していない。また、税金は「取られるもの」というマイナスのイメージを持つ生徒が見られ、「納めるもの」という認識は多くはない。

義務教育終了の学年にあたり、国や地方公共団体の財政が国民生活の安定や向上に結びついていることを理解させたい。また所得の再分配や景気の安定化など財政が国民生活に重要な役割を果たしていることも理解させるとともに赤字国債依存の脱却が財政上の課題であることを考えさせることも大切である。これからの時代を担う大人として、将来の主権者として、納税の義務を果たすとともに、税金の使いみちに関心を持つことが大切であることに気づかせたいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

租税について身近な資料をもとに話し合い、税への関心を高める指導のあり方を探る。

4 研究仮説

- (1) 身近な資料を活用することにより、税に対する関心が高まるであろう。
- (2) 税のしくみについての学習や話し合いを通して、様々な意見を聞き考えることで、財政活動への理解が深まり、関心も高まるであろう。

5 研究方法

- (1) 租税についての意識調査を行う。
- (2) 税理士会の協力により、租税教室を実施し、税に対する興味・関心を持たせる。
- (3) 教科書、資料集、税務署からの資料などを使用し、理解を深める。
- (4) 所得税に対する話し合いをし、税に対する様々な考えを聞き、考えを深める。
- (5) 亘理町の財政（予算）の移り変わりを、復興との関係で考える。
- (6) 10年後に、住みやすい亘理町にするためには、どこに予算を多く使えばいいか考える。

(7) 税について考えたことや感想を書き、今後の指導に役立てる。

6 研究計画

- 8月 租税教室座談会
- 9月 税に対する実態調査の実施、
- 10月 租税教室実施、授業実践
- 11月 研究のまとめ、発表

7 研究の概要

(1) 税に関する実態調査の結果 (28名 複数回答)

1) 税金の種類には、どんなものがあるか。知っているだけ書きなさい。(複数回答)

①消費税 (27人)	②所得税 (11人)
③たばこ税 (4人)	④酒税 (3人)
⑤関税 (2人)	⑥国税 (1人)

2) 税は、何に使われていると思いますか。(複数回答)

①建物 (8人)	②国のため (7人)
③学校関係 (4人)	④公務員の給料 (3人)
⑤救急車など (2人)	⑥よりよい生活 (2人)

3) 税金は必要だと思いますか。

必要	どちらかと言えば必要	必要なし
15名	13名	0名

(2) アンケートの考察

生徒は、まだ税についての学習をしていないため、税の種類や使い道など税に対する知識は多くはない。しかし、生徒にとって身近な税である「消費税」についての関心は高く、その動向に関心が高い。「税金は必要」と考えている生徒、「どちらかと言えば必要」と考えている生徒がほとんどで、「必要ない」と考える生徒はいなかった。使い道については、理解している生徒と知らない生徒との差が大きかった。税のしくみを正しく理解し、使い道について正しく学習することが納税意識を高めるのに必要だと考えた。そのためには、身近な資料であるをもとに、公共サービスや公共施設を国や地方公共団体が、「なぜ」、「何のために行っているのか」を理解させることが重要であると考えた。

(3) 租税教室 (木村経営管理会計)

- 1) 講師 木村拓也税理士
- 2) 参加者 3 学年生徒 (31 名)
- 3) 「税って何かな？」
 - ①税金とは
 - ②税金のしくみ
- 4) 租税教室を終えて
 - ・もっと知りたいことや質問。

- ・消費税が 10%になったときの、良い点と悪い点。
- ・なぜ税金を上げるのか？
- ・税は無駄なく使われているのですか？
- ・消費税の税率が上がった場合、生活はやっぱり苦しくなるのですか？
- ・今後、税金は増えるのか？
- ・消費税は、このまま上がっていくのか？
- ・一生で払う税金はいくらくらいか？

(4) 実践授業 I 社会科 (公民的分野) 3 年生

学習内容 所得税について考える。

学習目標 所得税について、どの方法が公平かをまとめ、自分の言葉で発表し合う。

学習課題 どの方法が公平か？

学習活動 1 前時までに学習した税金の種類について、小グループで確認し合う。

生徒の反応 ・消費税 ・所得税 ・酒税 ・法人税

学習活動 2 納税者と担税者が一致する税金、一致しない税金について、小グループで確認し合う。

生徒の反応 ・直接税 ・間接税

学習課題 『どの方法が公平か』

学習活動 3 「同じ金額」「同じ税率」「所得に応じて税率を変える」の中から、公平だと思うものを選び、理由をプリントに記入する。

学習活動 4 「同じ金額」「同じ税率」「所得に応じて税率を変える」の 3 グループに分かれて、自分の考えを話し合う。

学習活動 5 全体で、グループごとに考えを発表し合う。

生徒の反応 ・同じ金額の方が公平である。
・消費税のように同じ税率にするとわかりやすく、公平である。
・所得が少ない人が少なく税を払い、お金持ちがたくさん税を払うのが、公平である。

学習活動 6 「どの方法が公平か」について、自分の考えをプリントにまとめる。

学習活動 7 話し合いを通して、「わかったこと」「なるほどと思ったこと」をプリントにまとめる。

1) 所得税についての話し合いから

①話し合う前の考え

ア「どの人も、同じ金額の税にする」(0名)の主な意見

- ・この考えはいなかった。

イ「どの人も、同じ税率にする」(6名)の主な意見

- ・頑張って働いたのに、あまり働いていない人より多く取られるのはおかしい。
- ・同じ税率にすると不公平がなくなる。
- ・消費税のように同じ税率にするとわかりやすく、公平である。

ウ「所得に応じて、税率を決める」(20名)の主な意見

- ・同じ税率にすると、所得の低い人が大変。
- ・所得にあった税率を決めることが、必要。
- ・貧富の差がないように。
- ・所得が少ない人が少なく税を払い、お金持ちがたくさん税を払うのが、公平である。

②話し合い後の感想から

ア「どの人も、同じ金額にする」(0名)の意見

- ・話し合いの後も、この考えを支持する生徒はいなかった。

○友人の意見を聞いて、「なるほど」と思った考え

- ・皆平等であるから、差があっても同じ金額を払うのも1つの考え。

イ「どの人も、同じ税率にする」(6名)の意見

- ・頑張って努力した人から多く取るとかわいそう。
- ・給料が高い人から多く取ると、働く意味がない。
- ・皆平等だから、同じ税率がいい。
- ・所得が少ないのに、同じ税率を払うのはおかしい。

○友人の意見を聞いて、「なるほど」と思った考え

- ・低所得者の生活が苦しくなる。
- ・同じ税率の方が、不公平である。

ウ「所得に応じて、税率を決める」（20名）の意見

- ・所得が多い人が税を多く払っても生活はできるが、所得が低い人にとって同じ税率だと、生活が苦しくなる。
- ・同じ税率だと、所得の少ない人の負担が大きくなる。

○友人の意見を聞いて、「なるほど」と思った考え

- ・頑張っている人から、多く税を取るのはおかしい。
- ・自分が考えていない意見が出た。いろんな意見が聞けて、新しく思いつくことが多くあった。

③話し合いの結果からの考察

所得税について、「同じ金額」「同じ税率」「所得に応じて税率を変える」の3つの方法について、話し合いを試みた。「同じ金額」という生徒はいなかったが、どの生徒もしっかりと自分の考えを主張し、真剣に取り組んだ。話し合いの前後で、大きく考えが変わる生徒は見られなかった。しかし、互いの意見を発表し合う中で、「なるほど」と考えたり「それもあるな」など、相手の考えを全否定するのではなく、考えの一部を認めつつも、自分の考えを主張していた。様々な考えがあることを理解し、多面的に物事を捉え、共に高め合う姿勢が感じられた。将来の納税者として、「累進課税の意義」について考えることができたと思う。

(5) 実践授業Ⅱ 社会科（公民的分野）3年生

学習内容 亶理町の財政について考える。

学習目標 亶理町の財政について、震災復興と関連して考える。

学習課題 亶理町の歳入はどのくらい？

学習活動1 平成29年の亶理町の歳入はどのくらいかを考える（4択）

生徒の反応 ・1700万円 ・17億円 ・170億円 ・1700億円

学習課題1 『亶理町は何にお金を使っているか』

学習活動2 亶理町は、どんなことにお金を使っているか考える。

生徒の反応 ・学校 ・道路 ・公共のもの ・復興

学習活動3 平成29年の予算（歳入約170億円）から、「歳出の内訳」と「何に多く予算をとっているか」を予想し、グループで話し合う。

生徒の反応 ・民生費 ・土木費

学習活動4 震災前（平成22年の歳入約90億円）と震災後（平成24年の歳入約600億円）を比較する

生徒の反応 ・大きく増えている。 ・復興に使っている。

学習課題2 『10年後（2027年）に、もっと住みやすい亶理町にするためには』

学習活動動5 全体で、グループごとに考えを発表し合う。

生徒の反応 ・土木費を増やして、新しい道路や公園を造る。
・高齢化が進むので、民生費を増やす。

・土木費や衛生費を増やし、きれいな亶理町にする。

学習活動6 各班も意見を聞き、参考になった意見をもとに、自分の考えをプリントにまとめめる。

1) 亶理町の財政について話し合いから

①亶理の予算の内訳（震災の前と震災後）を見て、考えたこと。

- ・震災の復旧に、多く使っている。
- ・災害復旧費は、257億円になっている。
- ・年度によって、使う内容が変化している。
- ・国からの税金が多い。
- ・震災の復興に、すごいお金を使ったと思った。
- ・土木費が多くなっている。

②10年後の住みやすい亶理にするために

- ・土木費を多くして、亶理を発展させる。
- ・土木費を多くして、新しい道路や公園を造る。
- ・高齢化が進むので、民生費を多くする。
- ・子供を増やすために、教育費を多くする。
- ・子供の数が少なくなるので、教育費を削減する。
- ・土木と衛生費を増やし、住みやすい町にする。
- ・建物を増やす。
- ・子供とお年寄りが安心して暮らせるように、民生費と土木費を増やす。
- ・衛生費を増やし、町をきれいにする。

③話し合いの結果からの考察

亶理町の予算についての話し合いでは、予算の内訳（各項目の内容）については、個人で考えた後グループで話し合わせた。話し合いでは、参考になった友人の意見をメモするなど、どの班も真剣であった。また、震災前後の比較では、自分たちの町の復興に、多くの災害復旧費が使われたことに驚いていた。10年後の亶理町についての話し合いでは、よりよい亶理町にするために、各班真剣に話し合っていた。自分たちの班の意見を発表するだけでなく、他の班の意見を参考にしたり質問を考えるなど、共に高め合う姿勢が見られた。話し合いを通して、将来の納税者として税金の使い道に興味を持つことができたと思う。

8 まとめと今後の課題

(1) まとめ

- 1) 租税教室の開催は、専門的な立場からの話が聞けて生徒にとって、税を身近に感じるとともに、納税の必要性について関心を高めることができたと思う。
- 2) 話し合いでは、友人の発表内容を真剣に聞き、疑問に思ったことを質問するなど積極的に取り組んでいた。また、自分の考えを主張するだけでなく友人の考えも真剣に聞き、考

えをより深めようとしていた。話合いの後は、友人の発表内容を整理したり、疑問に思ったことを整理することにより、さらに、深く調査活動を行いたいという気持ちが出てきた。

3) 亘理町の財政に関する資料は、生徒にとって身近であったため、関心が高まったと思う。

(2) 課題

- 1) 今回は6時間扱いで行った。租税に対する興味を高めるため、そしてより高い成果を上げるためには、3年生の公民だけで租税学習を行うのではなく、1・2年生の授業内容と関連づけ、3年間を通した指導計画を作成する必要があると考える。
- 2) 税の役割やはたらきを、日常生活に結びつけて主体的に考えさせていくために、さらに指導方法の工夫や身近な資料の収集に努めていく必要があると考える。
- 3) 税に関する様々な資料を、限られた授業時数の中でどのように生かしていくかが課題である。

資料 【租税学習を終えて】

○税があったおかげで、復興ができた。

○税は、今まで納めたくないと思っていたが、税は納めなくていけないものと分かりました。なぜなら、税を使って町や国でいろいろなことをしているからです。

○税は取られるものだと思っていたけど、何かあった時、皆で共有、使い合うものと気づきました。

○消費税しか知らなかったけど、たくさんの税があることが分かりました。自分が知らないだけで、たくさんの人たちに関わっているものだと気づきました。税についての考え方が変わりました。

○震災の後に、たくさんの税が災害復旧に回された。

○税の種類や使い道が分かりました。税がなければ、大変なんだと思いました。

○税は、なくてはならないものだと思います。税がなくなると、救急車も呼べなく、復興も進まなくなる。税は必要。

○税は「めんどくさい」とか「何で払わなければならないの？」など思っていたのですが、大切なことだと分かりました。

○税は、必要。なぜなら、国のため使われ僕たちの暮らしを豊かにしてくれるから。

○自分や他の人が、災害などで困ったときに助けてくれる。

○税金を納めることによって、その町を良くしていく。納めることは、大切。

○税がないと、不便になる。国民にとって、大変になると思う。

○町の復興が進んだ。前より税に対する考えが変わった。

○税は「取られるもの」と思っていたが、「納めるもの」と考えが変わった。国を良くするためには、税金が必要だと感じた。

○税は、学校などみんなが使うものに使われていることが分かった。

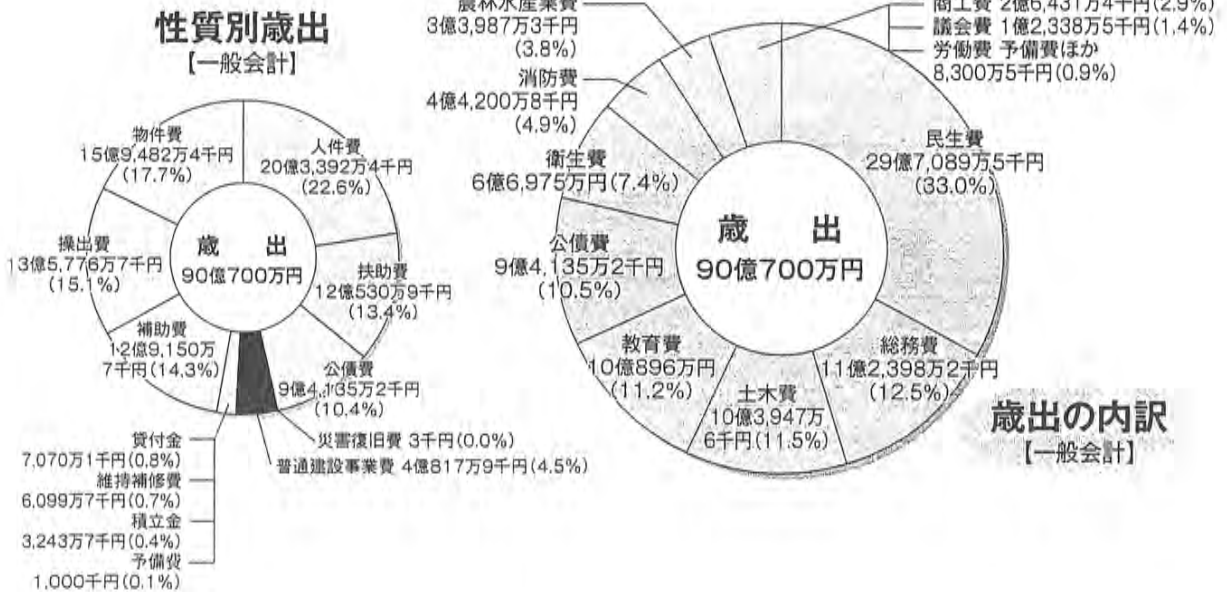
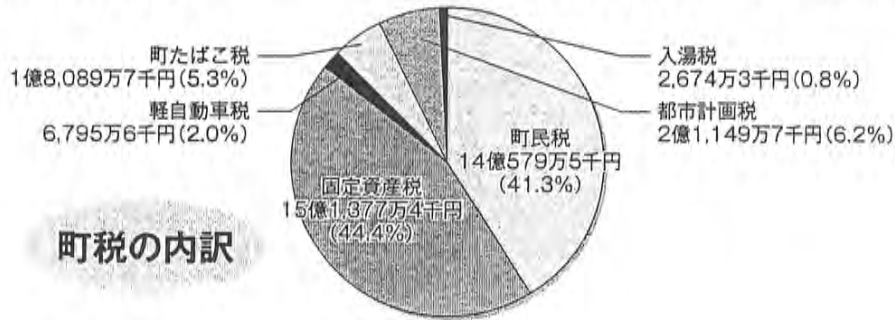
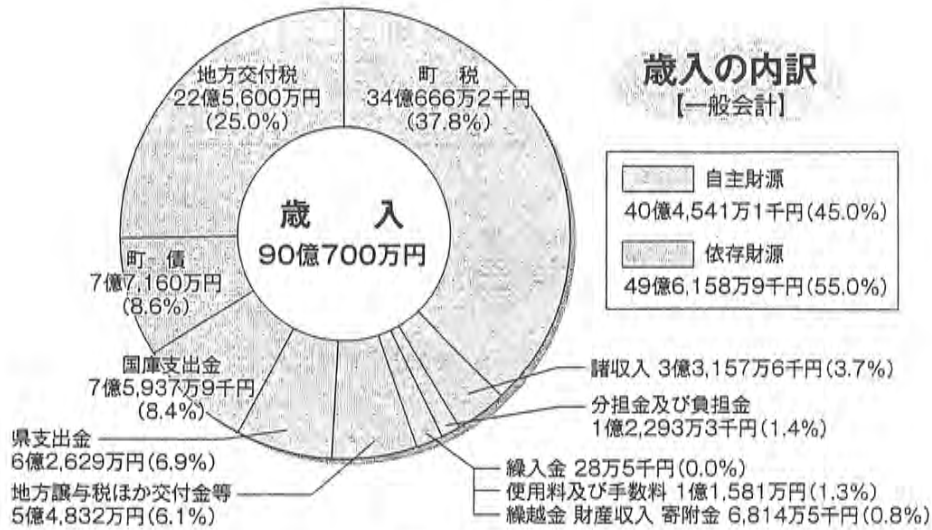
○税が国民の生活に役立っていると考ええると、税はなくてはいけないものと思った。

○「どうして税を払わなくていけないのだろう？」と思っていたけど、「納めることが大切」だと思った。

○払いたくないと思っていたけど、税は困ったときやよりよい日本をつくるために大切なものだと分かった。

○税は、私たちの生活をより豊かに、便利にするものだと分かった。

亘理町当初予算のあらまし



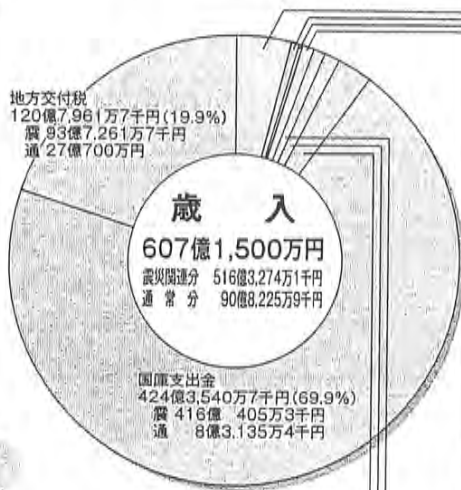
歳出の内訳
【一般会計】

亘理町当初予算のあらまし

自主財源
35億2,213万4千円(5.8%)

依存財源
571億9,286万6千円(94.2%)

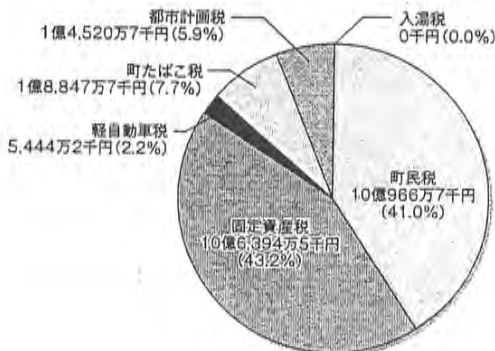
震：震災関連経費
通：通常経費



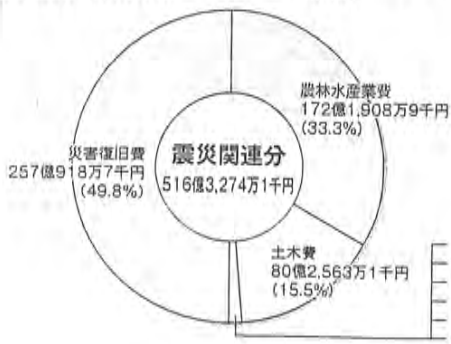
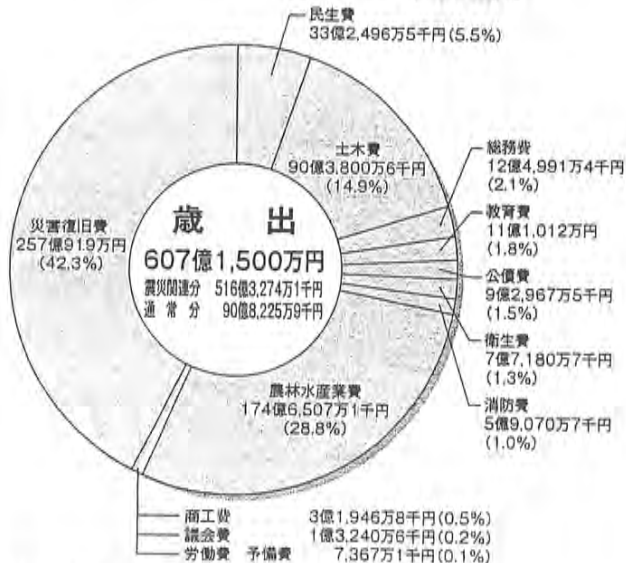
歳入の内訳 【一般会計】

- 町税 24億6,173万8千円(4.1%)
震 △3億7,800万円
通 28億3,973万8千円
- 諸収入 3億1,327万1千円(0.5%)
震 5万円
通 3億1,322万1千円
- 分担金及び負担金 1億2,365万3千円(0.2%)
震 0円
通 1億2,365万3千円
- 繰入金 4億7,090万9千円(0.8%)
震 1億1,794万4千円
通 3億5,296万5千円
- 使用料及び手数料 8,217万3千円(0.1%)
震 0円
通 8,217万3千円
- 繰越金 財産収入 寄附金 7,039万円(0.1%)
震 350万1千円
通 6,688万9千円
- 地方譲与税ほか交付金等 5億2,323万8千円(0.9%)
震 0円
通 5億2,323万8千円
- 町債 5億9,640万円(1.0%)
震 0円
通 5億9,640万円
- 県支出金 15億5,820万4千円(2.5%)
震 9億1,257万6千円
通 6億4,562万8千円

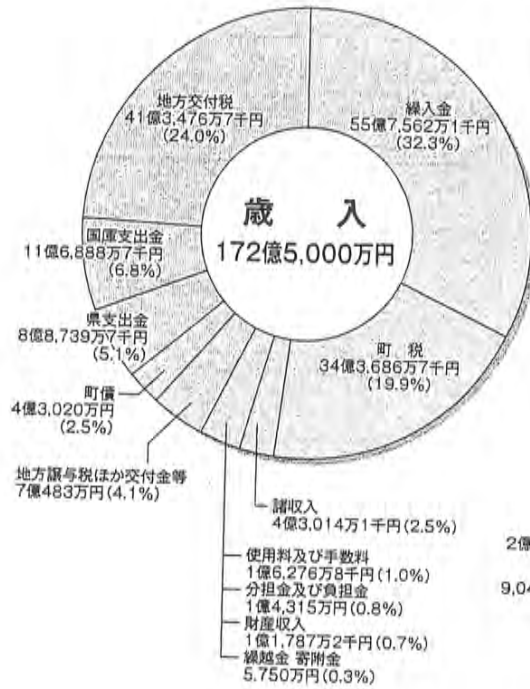
町税の内訳



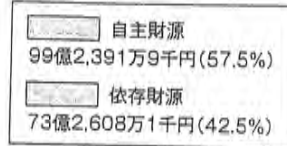
歳出の内訳 【一般会計】



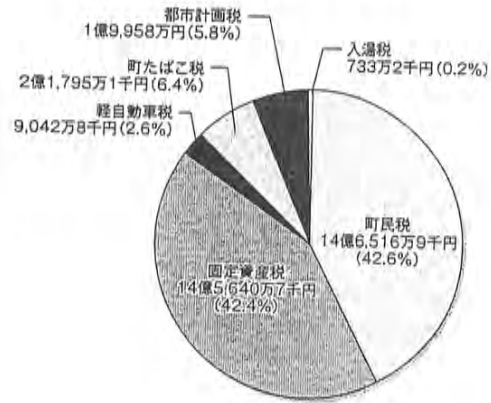
巨理町当初予算のあらまし



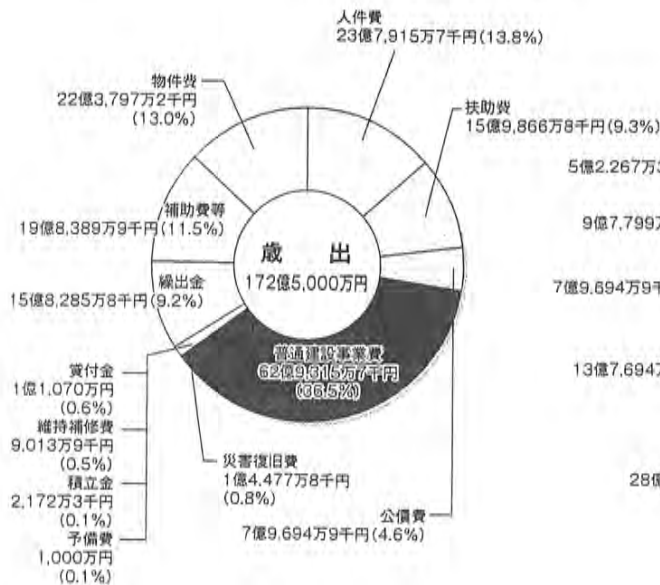
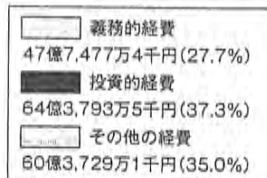
歳入の内訳 【一般会計】



町税の内訳



性質別歳出 【一般会計】



歳出の内訳 【一般会計】

